

田んぼの下はかつての村

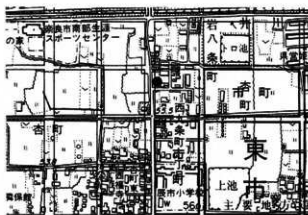
奈良市西九条町

調査地について 調査地は佐保川の支流である岩井川のすぐ南で、西九条町でも北西寄りにあります。調査地付近はかつて水田が一面に広がっていましたが、現在は宅地化が進んでいます。

調査の概要 調査は、平城京の左京八条三坊二坪内の様相を確認することを目的に、南北2ヶ所で計186㎡の発掘区を設定して実施しました。その結果、鎌倉時代後半から室町時代初頭（13世紀後半～15世紀前半）にかけての多数の柱穴や小土坑、井戸2基と、室町時代末（16世紀後半）から江戸時代初頭（17世紀前半）にかけての溝で囲まれた方形の区画を検出し、調査地が鎌倉時代後半から江戸時代初頭にかけての集落の一面であったことがわかりました。

鎌倉時代後半から室町時代前半にかけての遺構は、すべて南発掘区で検出しました。溝で囲まれた方形の区画は、南発掘区で南西隅の部分、北発掘区で北西隅の部分それぞれ検出しました。区画の西辺は約30m、南・北辺は20m以上あります。溝の幅は7～8m程度、深さは約1mです。埋土の堆積状態と出土遺物の時期から、江戸時代の直前に溝の内寄りが埋め立てられ、残った窪地が沼地になった後、江戸時代の初頭に完全に埋められたことがわかりました。

出土遺物は遺物整理箱で45箱分あります。その大半は土器で、鎌倉時代後半から室町時代前半の土師器・瓦器と、室町時代末から江戸時代初頭に



発掘区位置図 (1/10,000)

かけての肥前産、瀬戸・美濃産や信楽産の陶器及び在地の瓦質土器など多種多様です。

今回の調査地は、鎌倉時代後半から室町時代前半の柱穴や小土坑、井戸を検出したことから当時の屋敷地内とみられます。室町時代末に掘削され江戸時代初頭に埋まった溝は、この時期の屋敷地を区画する溝と考えられます。

辰市郷の中世集落 今回の調査地が位置する西九条町付近は、鎌倉・室町時代（13世紀～16世紀末）には西九条郷とよばれ、東九条郷（現在の東九条町付近）、杏郷（同杏町付近）、及び八条郷（同八条町付近）の3郷と合わせて辰市郷を構成していました。

辰市郷の地域では、今までに約100件の発掘調査が行われ、このうち約20件で鎌倉・室町時代の集落に関連する遺構が見つかっています。いずれ



北発掘区全景 (北西から)



南発掘区全景 (西から)

も小規模な調査なので遺跡の全容は不明ですが、今のところ、西九条町の北東部にある辰市小学校の北方で今回の調査地を含む地域（下左図参照）、同小学校東隣の上池の東に面した地域（下中央図参照）及び同小学校西方で杏東と杏南の集落間一帯の3つの地域でみつかる傾向があります。

いずれの地域でも、鎌倉時代頃の井戸や掘立柱建物が見つかっており、当時の屋敷地の存在がうかがえます。上池の東に面した地域では、屋敷地の西側を区画するとみられる南北溝が3条見つかっています。これらの溝は幅2.5～3m、深さ0.7～1.7mあり、鎌倉時代後半（14世紀）までに埋め立てられます。その後、室町時代後半（16世紀）頃に新たに溝が掘られますが、この溝は幅3～8m、深さ1～1.6mで鎌倉時代より規模が大きくなります。この溝も今回の調査で検出した溝と同様に江戸時代の初頭には埋まってしまいます。

奈良盆地の中世集落 奈良県内、特に奈良盆地内では、鎌倉・室町時代の集落遺跡が数多く見つかっています。天理市の菅田遺跡、田原本町の十六面・薬王寺遺跡、法貴寺遺跡は、広範囲で発掘調査が行われて様相がよくわかる好例です。

菅田遺跡は、鎌倉時代後半に成立した集落で溝を伴いますが、この溝は室町時代前半（15世紀）に埋まった後に室町時代後半頃に再び掘り直され、

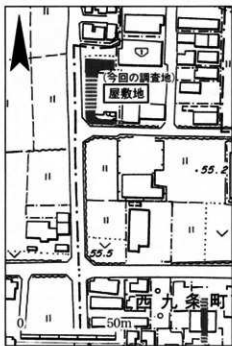
江戸時代初頭に埋められます。法貴寺遺跡では、溝に囲まれた5つの方形区画内に掘立柱建物と井戸などがある屋敷地が見て取れます（下右図参照）。溝は鎌倉時代前半（13世紀後半）頃に掘られ、大半は室町時代前半頃には埋まりますが、一部は江戸時代中頃（18世紀前半）まで残ります。

こうした発掘調査の成果から、奈良盆地における鎌倉・室町時代の集落の変遷については以下のように把握されています。

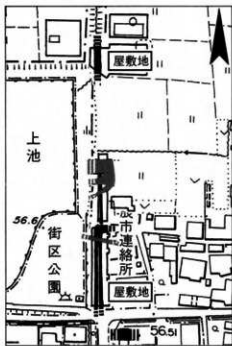
鎌倉時代前半以降に、屋敷地が散在する状況から、周りを溝で区画する屋敷地が集合するように変化します。当初は規模に差がない屋敷地の中から室町時代初頭（14世紀中頃）には大規模なものが現われ、室町時代前半以降に領主の居館を中心とする集落へと変化します。その後、江戸時代前半（17世紀後半）までに廃絶する集落がある一方で、現在に続く集落でも溝の多くは埋められます。

今回の調査地を含む辰市郷の地域における当時の集落も、同じような変遷が推察できます。

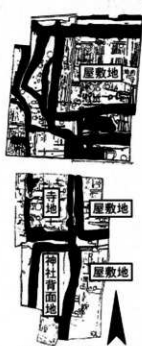
なお、室町時代前半の集落の変化については、在地の領主である国人が力をつけ、当時の大和国を支配する興福寺が弱体化する動向と対応します。また、江戸時代初頭の集落の変化については、幕藩体制への移行に伴い農村の再編が行われたことを反映する可能性があります。



辰市小北方地域の遺構 (1/2,000)



上池東側地域の遺構 (1/2,000)
アミ掛け部分は16世紀のもの



法貴寺遺跡 (1/2,000)